

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2023.2.21

第79号



人権・同和教育だより 丹波篠山

発行

丹波篠山市

人権・同和教育研究協議会

TEL・FAX 079-593-1260

http://t-s-doukyou-hr.jp

〒669-2734 丹波篠山市宮田240

丹波篠山市役所 西紀支所3F

年3回発行 6・10・2月

研究大会
報告

第24回 丹波篠山市人権・同和教育研究大会を終えて

大会
テーマ

人権意識の豊かな 人づくり・世間づくり・まちづくり

2022年12月11日(日)丹波篠山市立田園交響ホールにて約300名の参加者で研究大会を開催しました。奥田均さん(近畿大学名誉教授)の基調講演から差別の構造や解消に向けての問題意識を学びました。



基調講演

取り組みの立脚点は差別の現実－問われているその基本認識－

奥田 均さん(近畿大学名誉教授)



1. はじめに

近年、様々な人権課題が提起されています。それらの人権の課題は、突如現れたわけではなく、ようやく私たちが人権の課題として捉えるようになったからです。つまり差別の現実として認識したからです。

2016年に部落差別解消推進法が制定、施行されました。その中でも第一条の「目的」の概略は「現在もなお部落差別が存在するとともに、部落差別は許されないものであるとの認識の下に、部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現することを目的とする」とされています。この法律によって部落差別の存在が明確に示されました。

2. 差別の現実認識における「実感主義」の克服

差別を最も実感しているのは差別を受けている当事者です。差別の不安、悔しさ、つらさなど、心に受ける傷はわかってもらえにくい痛みです。解決の方法は、当事者が多くの人に訴えることしかありません。しかし、それは当事者が部落出身者であるという差別を受けるリスクを伴います。そうした差別の力が当事者の訴えをあきらめさせ、「差別の現実」を見えにくくしています。そして多くの市民は「もう部落差別なんて存在しない」と悪気無く思い込んでしまいます。ですので、差別の現実を「実感」で判断すると間違ってしまう。学習を通して差別のカラクリにからめとられない科学的・理性的な認識を持ちましょう。

3. 「加差別」の現実の発見－差別の現実はどこにある？

差別の現実には、差別を受けている「被差別の現実」と差別をしている「加差別の現実」の二つの側面があります。「差別の現実の解消」はその両方を解決することですが、むしろ「加差別の現実の解消」のほうがこそ、より根本的な課題であるといえるかもしれません。

4. 社会問題として差別の現実をとらえる

今までの差別に対する対策により、当事者(被差別)を襲っている差別の実態の改善はしてきましたが、解決はしていません。しかし部落差別解消推進法では、差別のない社会を実現することを目的としています。つまり、いままでの「部落を変える」から部落の外側も含めて「社会を変える」ことをめざしています。こうして部落差別を社会問題としてとらえるからこそ、だれもが当事者となり解決にむかいます。

5. 「寝た子を起こすな論」の克服

「寝た子を起こすな論」とは、赤ちゃんは部落問題を知りません。だから知らないままにそっとしておけば、いつか誰も知らなくなり部落問題はなくなるという考え方です。

しかし、部落問題は日常生活を過ごすなかで、様々な情報によって築かれます。学校教育や行政による啓発が行われないということは、多くの人々が誤って部落差別を知ってしまう、つまり「差別的に知ってしまう」ということです。この論は、部落解決への立ちはだかる壁となっています。だからこそ、学習を通じて差別の現実を認識し、社会問題として位置づけ私たちの明るい未来を築きましょう。

【参加者の声】

- * 部落差別のことは知っているつもりでしたが、気づかないうちに傷つけてしまっていることなど、あらためて学びました。
- * 「被差別」、「加差別」の両当事者の立場で差別について考えることが出来ました。みんながいつも当事者。その意識を持ち続けたいです。
- * 今までは自分は、「寝た子を起こすな論」でしたが、少し考え方が変わりました。
- * 「加差別」について大変印象に残りました。正しく認識する大切さをあらためて感じました。

※奥田均さんの書籍をご覧になりたい方は市同教までお問い合わせください。

丹波篠山市同教企業部会 会員募集中！

社員一人一人の人権が尊重され、元気に仕事ができる職場づくりのためにも是非ご加入ください。毎年、企業向けの人権研修会などを開催しております。

お問合せ先 丹波篠山市人権・同和教育研究協議会事務局
TEL・FAX 079-593-1260

専門部会研修会

各専門部会の研修会等
を紹介します

高齢者部会学習会

年間

市内の各老人クラブや支部で、新型コロナ感染状況を鑑みながら取り組んでいます。第6福寿会では「高齢者の福祉」をテーマに西部包括支援センターから講師を招き、学習会を開催しました。住民学習会と合同で開催している所もあります。様々な人権テーマで学習しています。



男女共生部会研修会

11/12

テーマ「男女共生とは？～誰もが安心して暮らせる社会をめざして～」

講師：井山里美さん（NPO法人女性と子どものエンパワメント関西事務局長）



【参加者の声】

- 「身近な人をほめること」早速やってみます。
- 多様性を認めるということは、誰もが自分らしく生き

られる、自分らしく発言できるようになることだと学びました。

- 自分について振り返ることができました。
- とても分かりやすく、たっぷりとした時間の中で、再度ご講演いただきたいです。

PTA部会研修会

1/22

テーマ「ウイズコロナ時代の保護者のあり方」
講師：原 清治さん（佛教大学副学長）

【参加者の声】

- 日頃、家事・仕事をする中で、子どもと向き合う時間をおろそかにしていたかもしれないと反省しました。
- 自分では思っていたことのない「子どもの世界」を知ることができたと思います。今よりもっと子どもとの時間を大切に、子どもと積極的にやり取りをしながら見守っていききたいと思います。
- 子どもとのコミュニケーションについて考えさせることがたくさんあり自分自身の考え方が変わりました。
- 今までの我が家での子どもの育て方が本当によかったのか、振り返る機会になりました。



障がい者部会啓発チラシ設置・配布

11月末から

「障害者週間12月3日～9日」を中心に11月末から、市内の公共施設や事業所など計40箇所に設置、また市内の3高等学校の全生徒へ配布いただきました。市同教研究大会でも配布し、合計で約3000枚の啓発チラシを設置・配布しました。この活動には市内の多くの方々にお世話になりました。



写真は丹波篠山市民センターでの設置の様子

保・幼部会研修会

10/18

テーマ「人権を大切にしたい保育について」
講師：ト田真一郎さん（常盤会短期大学教授）

【参加者の声】

- 多様化している社会の中で、多数派が少数派に目を向け、取り入れられるようにすることが大切だと知りました。そうすると、多数派、少数派、互いに世界を広げることができることを学びました。
- 「自分への尊敬」と「相手への尊敬」を育むことの大切さを学ぶことができました。
- クラス作りで自分の価値観が大いに子どもたちに影響することを知り、当たり前と思い行動していることや考えをしっかりと見直していきたいと思いました。



地域部会研修会

11/24

テーマ「丹波篠山の戦前から戦後にかけての在日の歩みから学ぶ」
講師：丹波篠山市在日コリアン足跡調査研究・銘板設置の会

【参加者の声】

- 丹波篠山に釜山があったことも知らなかったです。
- 今まで聞いたことのない話を伺い、大変参考になりました。
- 初めて知ったこともあり勉強になりました。地域内のコミュニケーション、交流を深めて生きやすい集落をつくることの難しさを、どう克服していくか常に思っています。



学校部会研修会

11/29

テーマ「学び続けて新たに気づく～人権学習の基本～」
講師：塚本一男さん（元丹波篠山市小学校教員）

【参加者の声】

- 「自分も大切にする」という言葉であらためて考えました。一人一人が大切な存在だということを常日頃から伝えていこうと思いました。
- 同和問題は絶対にこれからも学び続け、伝え続けなければいけないことだと思いました。
- 思わず人は差別してしまうもので、それを生徒にも自覚させるとともに自分も自覚し、人を傷つけない社会づくりをめざしたいです。



暮らしの中から



「心の豆まき」

今年の立春は2月4日で、その前日の2月3日が節分の日となります。

お正月が終わったと思えば、早くも近所のスーパーでは「恵方巻」の予約の放送がよく流れています。また、テレビや雑誌で取りあげられることも多くなっています。

子どもが通う園でも、「鬼は外、福は内」の掛け声で、先生と一緒に豆まきをしたりします。

ところで、外に追い出す「鬼」とは何をさすのでしょうか。気になって調べてみたところ、仏教では、「鬼は煩惱と呼ばれる人の欲望や悪い心に住み、それが災いとなる」と考えられていて、「目には見えない良くないもの」であり、自分の心の中にある「弱い気持ちや負の感情など」が「鬼」と言われているとのことでした。

節分は元々は中国の行事であり、疫鬼という疫病をもたらす鬼を、魔除けの力がある穀物で追い払うというもので、それが、日本では平安時代に現在の節分の形である「鬼を豆まきで追い払う」という催しに変化し、江戸時代には仏教が庶民に普及したことで節分の催しが定着したようです。（ホームページ：販足マップ【節分の鬼】鬼って何？ どんな存在？ 鬼の正体に迫るより引用）

古くから私たちは心に潜む「弱い気持ちや負の感情など」と向き合ってきました。それは普段の生活の中で出会うことがあります。

例えば、地域新聞の事件や事故の記事を読んだり、近所で救急車のサイレン音が聞こえたりすると、「どこの誰だろう」と思ったりしたことがあると思います。

自分が当事者になる可能性があるという中で、いつ、誰が、どこで、どうなったかなどを友人や知人に問い合わせたり、知ること、その人の行動を安易に非難してしまうことがあるのではないのでしょうか。人の心の中の鬼は簡単に「外」に出すことはできません。自分自身で反省や心に余裕ができるような生活をしていくことで、心の内にも「福」を呼び込みたいものです。（中井慎太郎）

「人権・同和教育セミナー2022」より

人権・同和学习を深める場として、一年間に5回の連続講座を企画しました。第1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、第2回、第3回の様子は前号で紹介いたしました。今号では、第4回、第5回の様子と参加された方々の感想を紹介します。



第4回「差別と社会－差別が生じるメカニズム」11月5日（土）開催

講師 内田 龍史さん（関西大学教授）



差別の発生の構造をマジョリティ（多数派）とマイノリティ（少数派）の立場から分析されました。マイノリティ（あたりまえではない人・理解不能な人）を遠ざけ、見下し、仲間外れにすることが差別の原因になり、その原因を差別されている人の問題にすり替えるというしくみを語っていただきました。また、部落差別について詳しく知らない若者たちが、インターネット上で拡散されている情報を誤って認識する危険性についてもお話いただきました。

- 差別が生まれるメカニズムについて、多数派と少数派の関係について理解できました。
- 様々な情報があふれ、混乱している今の時代、その中から何が正しくて、何が間違いかを判断する能力を養うことも大切。何事も正しく知る必要があると学びました。
- 差別のメカニズム、差別を生み出す悪循環の話の中から、自分の中にある無意識の差別心をどう認識し克服していくか、改めて考えました。

第5回「部落差別の解消に向けて」～人権教育・啓発の課題をふまえて～1月29日（日）開催

講師 棚田 洋平さん（部落解放・人権研究所事務局長）



今年度の最後のセミナーとして、第2回から第4回まで（第1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）の内容を分かりやすくまとめていただきました。部落差別解消に向けた実践はすべての人の権利を守ることにつながる。つまり、すべての人があらゆる差別問題の当事者になる構造を語られました。そして差別をなくすためには、マイノリティ（少数派）の排除・同化・適応でなく、マジョリティ（多数派）の変革が必要であり、また無関心でいることが最も差別を助長すると教わりました。

- いろいろな人がいる中で、格差をいかに正していくのか考えることが大切だと思いました。また、日々生活していく中で、人権というアンテナを高くもっておくことが、自分や他人を守るうえで大切だと感じました。
- 様々な資料やデータを用いて具体的な事例や現状について認識を改めるとともに学ぶことができました。
- 課題を整理してお話いただいて、改めて私たちがどうすべきか、考えるきっかけをいただきました。

編集後記

12月11日に開催した丹波篠山市同教研究大会で、奥田均さんによる基調講演の中に以下のような話がありました。

1990年の東京には474の駅があり、このうち車椅子で自由に利用できる駅数はゼロ（駅員の介助などは省く）でした。それが2021年には759駅、このうちエレベーターなどによって車椅子で自由に利用できる駅数は716駅、全体の97.6%の駅で不便なく電車を利用することができるようになりました。

この約30年間で変わったのは、当事者だけではなく、周りの私たち一人一人が自分事として社会問題とらえて解決しようとしたからです。そして車椅子の障がい者の自由が広がったのです。

この話から、社会を構成するすべての人が、差別問題を解決する当事者であるという事をあらためて学びました。

これから予定している研修会をお知らせします

※宗教部会研修会

日 時 3月9日（木）13:30～15:00
テーマ：「古文書に見る丹波篠山の人権の歴史」
講 師：今井 進さん（市同教啓発推進委員）
場 所：丹波篠山市民センター 多目的ホール

※企業部会研修会

日 時 3月14日（火）18:30～20:00
テーマ：「古文書に見る丹波篠山の人権の歴史」
講 師：今井 進さん（市同教啓発推進委員）
場 所：丹波篠山市民センター 多目的ホール

※上記の研修会は新型コロナウイルス感染拡大状況により中止や変更する場合があります。